

SY3-2

会員ニーズ調査結果の報告と若手が考える魅力的な学会活動に向けた検討

草野 恵美子

大阪医科薬科大学看護学部

若手による小児保健検討委員会により 2023 年 1～2月に実施した会員ニーズ調査の結果から、若手が考える魅力的な学会活動の検討に向けて、今回は特に、日本小児保健協会（以下、本協会）の魅力につながる結果についてご紹介する。

調査実施期間は 2023 年 1 月 4 日～2 月 28 日であり、無記名の Web 調査とし、日本小児保健協会メールマガジンにて会員に周知して協力を仰ぎ、最終的に 134 名の会員にご回答頂いた。

回答者の年代は、30 代 14 名 (10.4%)・40 代 38 名 (28.4%)、50 代 39 名 (29.1%)、60 代 38 名 (28.4%)、70 代以上 5 名 (3.7%) であった。職種については、最も多かったのは看護師 55 名 (41.0%)、次いで小児科医 43 名 (32.1%) であり、歯科医師、保健師、助産師、臨床心理士等心理職、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、教諭（小・中・高）、保育士、社会福祉士、大学教員・研究職、会社員と多岐にわたっていた。

入会理由（複数回答）で約半数が選択していた項目は、「仕事に関連」「小児保健を勉強したい」「小児保健に興味があった」「学術集会発表のため」であった。次いで「多職種連携の実際が知りたい」「論文投稿のため」となっていた。本協会を知ったきっかけは「同僚・上司から聞いて」が最も多かった。入会して良かったと感じたこと（複数回答）は、「小児保健に関する最新情報を得られた」「小児保健の視野が広がった」「講習・セミナーが充実している」「多職種の視点を学べた」が上位となっていた。

本協会の活動内容の情報源は、「メールマガジン」が圧倒的に多く、次いで「本協会主催の講演・セミナー」であった。今後さらに発展が期待されるものとしても「メールマガジン」が最も多くなっていた。学会誌「小児保健研究」は「必ず読む (27.6%)」「たまに読む (67.9%)」であった。

本協会に期待していること（最大 3 つ）で多かったものは、「診療や支援のガイドライン策定」「ICT を活用した会員向け教育支援」に続いて、「多職種で集える場づくり」「研究支援」「子ども向けコンテンツを掲載した WEB ページ作成」であった。

40 代以下を「若手」、50 代以上を「ベテラン」として比較した場合に特徴的であった項目として、若手の方が多く回答していたものは、学術集会発表・論文投稿の場として本協会を選んだ理由としての「多職種と議論したかったから」や本協会に関する情報源としての「メールマガジン」の活用やそれへの期待であった。またベテランの方が多く回答したものは、入会して良かった理由の「多職種とのつながりが築けた」「実践的視点が広がった」であった。

本調査結果から垣間見ることができた本協会の魅力の 1 つは、「多職種による参画・連携」であり、若手が期待することであると同時に、長く本協会で活動しているベテランが入会メリットとして感じていることとも一致していた。また、全体として最新の知見・情報発信やセミナー等の会員教育支援に関しても魅力であるとともに、ICT 活用を含めた今後への期待の高さがうかがえた。